

インフォメーションBOX



コミュニケーションスキルアップセミナー①

交流分析講座

～自分を知り、子どもとこころを通わすために～

教育現場で活かせる交流分析（TA：Transactional Analysis）の手法の基礎と実践を学びます。

【日 時】平成20年1月26日（土） 9:30～17:00

【対 象】少年団体指導者、子どもに関係する指導者、教員

【募集人員】40名

【参加費】1,000円（教材費、昼食代）

【申込方法】電話でお申込みください。

（平成19年12月17日（月）～平成20年1月18日（金））



コミュニケーションスキルアップセミナー②

コミュニケーション講座

～コミュニケーションを解剖する～

人間関係構築の手法や教育現場での活用方法について体験型ワークショップなどを通して学びます。

【日 時】平成20年2月16日（土） 9:30～17:00

【対 象】少年団体指導者、子どもに関係する指導者、教員

【募集人員】40名

【参加費】1,000円（教材費、昼食代）

【申込方法】電話でお申込みください。

（平成19年12月17日（月）～平成20年2月8日（金））



第7回・ファミリーキャンプ 募集中

房総の小正月体験とかきもち作り

どんど焼き、鏡開き、かきもち作り、もちつきなど、房総の昔ながらの小正月をおいしく、楽しく体験しましょう。自然の家巨大すごろくにもチャレンジします。

【日 程】平成20年1月19日（土）～20日（日）1泊2日

【参加費】小学生3,700円、中学生3,900円、大人（千葉市民）4,800円、大人（千葉市民以外）5,600円、未就学児（3歳～6歳）3,400円、乳児（3歳未満）500円

※参加費には施設使用料、リネン代、プログラム代、食事代（夕1回、朝1回、昼2回）を含みます。）



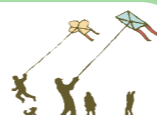
【対 象】3歳以上中学生以下のお子さんを含む家族

【募集人員】18組（ログハウス宿泊：1家族1棟）

【申込方法】往復はがきに必要な事項（①主催事業名、②代表者氏名、③住所、④電話番号：自宅・携帯、⑤参加人数：お子様の学年・年齢）をご記入の上、少年自然の家へお送りください。（12/26（水）必着）

お申し込み多数の場合は抽選にて決定させていただきます。

※詳しくはホームページをご覧ください、電話にてお問合せください。



第8回・ファミリー・ウィークエンドプログラム 募集中

プログラムの指導は経験豊かな当所のスタッフや、明るく楽しいボランティアが担当します。1泊2日で最大3つのプログラムに参加できます。

【日 程】平成20年1月12日（土）～13日（日）1泊2日

【対 象】3歳以上中学生以下のお子さんを含む家族

【募集人員】35組（宿泊棟宿泊：1家族1部屋）

【参加費】小学生3,200円、中学生3,400円、大人（千葉市民）4,200円、大人（千葉市民以外）5,000円、未就学児（3歳～6歳）2,900円、乳児（3歳未満）500円

【申込方法】往復はがきに必要な事項（①主催事業名、②代表者氏名、③住所、④電話番号：自宅・携帯、⑤参加人数：お子様の学年・年齢）をご記入の上、少年自然の家へお送りください。（12/15（土）必着）お申し込み多数の場合は抽選にて決定させていただきます。

※詳しくはホームページをご覧ください、電話にてお問合せください。



クライミングウォール

指導者養成講座 募集中



この養成講座では、使用者の自己責任と安全管理の徹底を理解して頂くこと、器具の取り扱い方や指導法について紹介していきます。「指導者認定証」の発行後1年間は、団体として当所のクライミングウォールを利用することができます。

【第8回】平成20年1月13日（日） 13:00～15:00

【第9回】平成20年2月10日（日） 13:00～15:00

【第10回】平成20年3月 9日（日） 13:00～15:00

【対 象】クライミングウォールを利用希望する少年団体の指導者（高校生不可）、教職員

【参加費】300円（保険代）

【申込方法】電話でお申込みください。（先着順）

千葉市少年自然の家だより

No.33

ゆくくと

12月号

平成19年12月1日発行
（毎月1日発行）

発行所／千葉市少年自然の家 〒297-0217 千葉県長生郡長柄町針ヶ谷字中野1591-40 TEL(0475)35-1131 発行人／赤澤 晃

新しいプログラムの取り組み

今年度、千葉市少年自然の家では、小学6年生の農山村留学と小学5年生の移動教室のテーマに則したプログラム開発に取り組んでいます。今回、登戸小学校（6年生）と土気小学校（5年生）にご協力いただき、環境をテーマとしたモデルプログラムを行いました。



切り倒した杉の切り口を観察している様子。切り口は湿っていて、とても良いにおいがありました。

農山村留学モデルプログラム（登戸小学校）

11月14日（水）から17日（土）にかけて実施された登戸小学校の農山村留学では、長生農林振興センターの協力を得て林業体験をプログラムの柱としました。

1日目は、2日目の林業体験に向けて、のこぎりを実際に使い、杉の丸太切りに挑戦しました。2日目は朝から所外に出かけ、まずは若齢の檜の枝打ちを行いました。子ども達は、のこぎりの練習を活かし、木肌を傷つけないように一本一本真剣に切っていました。切った檜の枝は、独特の強い香りがします。大人の感覚ではとても良いにおいなのですが、「くさい」という子、そして「入浴剤のにおいがする」という声が聞こえてきたのが印象的でした。

午後からは場所を移し、長生農林振興センターの指導のもと、樹齢27年ほどの杉の木を8人～9人のグループで1本切り倒しました。小さなのこぎりを使い、太い木が倒れていく姿は想像以上の迫力だったようで、子ども達から歓声があがっていました。倒した木は枝を払い、幹は「玉切り」という運び出しやすいように小さく切り出す作業を行い、自然の家へ持ち帰りました。持ち帰った杉の枝や幹、葉、実を材料として、夜はそれぞれオリジナルのクラフト作りを行いました。子ども達の作品はどれも創造性にあふれたものとなり、良いお土産になりました。

3日目の野外炊飯では、切り出して来た生木と、乾燥させた木の燃え方の違いを学びながら、間伐材で作られた薪でカレーライスを作って食べました。

この3日間で行ったプログラムを4日目に壁新聞風にまとめて一人ひとり発表を行い、それぞれが森に対して感じたこと、体験を通して思ったことを発表し、分かち合いました。「森を守るために、どうして木を切るのか分からない」そんな疑問に対する答えが、活動を通して理解できたという感想もあり、体験を通じて学ぶことの大切さ、また仲間と共に行った活動の意義を感じていたようです。

【林業体験を終えて】千葉市立登戸小学校 教諭 細野正子

「何が一番心に残りましたか？」この問いに一番多かった回答は「林業体験」でした。実際に自分で枝打ちをしたり、間伐として樹齢三十年の杉の木を切り倒したりと、今までもそしてこれからも、おそらくは経験することのない作業ばかりでした。千葉駅周辺の登戸に居住している子どもたちにとって貴重な体験となったことは間違いありません。このような機会を与えて下さった少年自然の家の方々及び、農林振興センターの方々に感謝します。



長生農林振興センターの方から間伐の説明を受けている様子。木を切り倒す前に、受け口と追い口を作ります。

新しいプログラムの取り組み 移動教室モデルプログラム (土気小学校)

今回は、環境をテーマとしたモデルプログラムを行いました。プログラムを企画するにあたっては、①学校での取り組みと関連づける、②実施したプログラムが学校へ戻ってからの活動につながる、③引率の先生にも取り組みやすい手法を用いる、の3点に留意しました。そして、我々を取り巻く環境の中でも身近な「土」と土の中に生息する「土壌生物」を調べ、環境の豊かさについて学ぶというプログラムを、11月21日(水)～23日(金)に土気小学校移動教室にて実施しました。

1日目は所内3箇所に分かれ、決められた範囲の落ち葉や土を採取しました。2日目には採取した土からピンセットや手を使い、土壌生物の採取をしました。次に、採取した土壌生物を、生息している環境ごとに3つのグループに分類し、各グループごとに得点をつけて土を採取した場所の点数を集計しました。これらの点数は、豊かな環境ほど高い点数が得られるようになっており、それぞれのグループで計算した結果は、採取した場所の土の状態と同じ結果となりました。またこのプログラムと併せて、ふるさと田んぼゾーンにて植物の根を掘り、普段見ることのない植物の根の形を確かめました。



採取した土壌生物のグループ分けをしました。

最後に各グループごとに2日間行った調査を報告書にまとめ、発表会を行いました。子ども達からは「場所が違うだけで住んでいる生物が違うことに驚いた、また調べてみたい。」「場所によって土の色が違うのに驚いた。」「土壌生物はそれぞれが棲みやすい場所に住むことが分かった。」といった新たな気づきや「土の中を見たことがなかったのでたくさんの土壌生物を見つけることができてよかった」という土や生き物に新たな興味を持った感想が出されました。今回の手法は、大変シンプルで子ども達も取り組みやすかったようです。一人ひとりが集中し取り組んでいる姿が印象的でした。

【「土」の研究を体験して】 千葉市立土気小学校 教諭 莊司和子
ひたすら土とふれあった3日間、子どもたちは、新しい発見に感動の連続でした。総合の時間に学習した環境問題の発展として、自然の家に移動したからこそその学習を積み重ねることができました。子どもの感想に「私の家を建てる前は、豊かな土地だったと思います。私たち自身で環境を悪くし、破壊しているのだと思いました。移動教室の根っこ掘り、土の研究、土壌生物探しは、とてもいい経験でした。・・・」と書かれていました。

今後も新しいプログラムの開発に協力できたらと思います。

主催事業・イベント報告

自然の家ファミリーキャンプ 秋のアウトドアクッキングパーティー

11月のファミリーキャンプは、18家族、63名の参加者とともにダッチオーブンによるアウトドアクッキングをメインに2日間を過ごしました。

1日目、クッキングの前にパーティーの雰囲気を作るため、竹を使った行灯とキャンドルランタンを家族で作りました。行灯の窓には障子紙を使い、草花を自由に飾り付けました。そして、夕方からダッチオーブンをを使い、ローストチキン、ポークシチュー、パンの調理を協力して行いました。その後、昼間に作った行灯に火をともし、柔らかな光の中で食事を楽しみました。

2日目は、ダッチオーブン料理の第2弾として焼きカレーと焼きリンゴ作りに挑戦しました。簡単にできたにもかかわらず、おいしいと好評でした。

ダッチオーブンで調理している様子。



土壌生物をじっくり探します。



パン作りの様子。



竹の行灯作りの様子。



できあがったローストチキンとポークシチュー。

自然の家プログラム紹介

草花のしおり作り

気に入った花や葉を使ってしおりを作るプログラムです。草花の他に千代紙や折り紙を入れて鮮やかに仕上げることもできます。また、草花を選び、採取する過程では、草花の形や触感、色やにおいなど普段は見過ごしていた植物の姿に気づくことができるでしょう。

1. 花や葉など自分がしおりに入れたい草花を採取します。
2. 採取した草花をティッシュで挟み、さらにそれを2枚のタイルで挟みます。
3. 草花を挟んだタイルを電子レンジに入れ、約3分間加熱し、水分をとばします。
4. 乾燥した草花を千代紙などと一緒にラミネートフィルムの中に配置します。
5. ラミネートを施し、パンチで好きな場所に穴を開け、リボンを通して完成です。



思い思いのしおりを作ることができます。

世界で1つだけのオリジナルしおりを作りましょう。



気に入った草花を採取します。



採取した草花をティッシュとタイルで挟みます。



草花を挟んだタイルを電子レンジで約3分間温めます。

自然の家周辺情報 笠森観音



延暦3年(784年)、最澄(さいちょう)が創立したと伝えられています。大きな岩の上に四面を舞台づくりにした日本唯一の四方懸造(しほうかけづくり)というたて方をした観音堂(かんのんどう)が有名で、61本もの柱で支えられ、堂の上へは75段もの階段を上ることになります。

回廊からは房総のいくつもの山々を見わたせます。また、六角堂(ろっかくどう)や鐘桜堂(しょうろうどう)、紫金閣(しきんかく)なども建ち、参道の途中には根本の大穴をくぐると子どもを授かるといわれる子受け楠もあります。



子受け楠

笠森観音の見どころ!!

芭蕉翁句碑 (ばしょうおうくひ)



松尾芭蕉が観音堂の上でよんだ句が石碑に刻まれています。「五月雨に この笠森を さしもぐさ」この句は、「五月雨のそぼふる中を通りかかった娘が、自分が濡れるにもかかわらず観音様に笠をさしあげた」という故事をふまえているそうです。

Season Snap Shot



もみじが紅葉のピークを迎えています。さわやかな秋晴れに、赤や黄色の葉っぱの色が似合っていますね。ススキは秋の七草の一つに数えられます。穂を動物の尾っぽに見立てて、「尾花」と呼ばれることもあるそうです。穂についた種子は風に乗って飛んでいきます。

カエルが草むらの中で丸くなっています。一休みしているのか、考え事をしているのか、はたまた冬眠をしているのか・・・。

